

令和6年度 第2回大津市社会福祉審議会 障害者福祉専門分科会 会議結果

- 開催日時 令和7年2月3日（月）10:00～11:30
- 場 所 大津市役所 本館4階 第3委員会室
- 参加者 委員：7名（欠席2名）、事務局：6名、傍聴者：0名
- 議 題（1）おおつ障害者プランの進捗報告について
 - 資料1 令和5年度実績
 - 資料2 令和6年度進捗状況
 - 資料3 見込量と実績
 - 資料4 障害福祉にかかる事業費の推移
- （2）大津市公共施設バリアフリーチェックについて
 - 資料5 令和6年度大津市公共施設バリアフリーチェック

▼開会

▼議題

（1）おおつ障害者プランの進捗報告について

＜事務局＞

資料1～4 を用いて、事務局から説明

＜委員＞

- ・セルフプランについて、子どもと大人では異なる面もあると思うが、どのような方針で対応していくのか？

＜事務局＞

- ・大人で自分でプランが作成できる人は、セルフでもいいということは一定ある。
- ・補助金は計画相談1件あたりの金額であり、子どもと大人で差を設けていない。

＜事務局＞

- ・大人のセルフ率は身体 35.2%、知的 17.2%、精神 40.9%。子どもは 21.1%だが、大津市では未就学児は 100%相談支援専門員がプランを作成しているため、小学生以上でみると 26.3%となる。
- ・放デイ、B 型のみならセルフでもよい方もあるが、特にヘルプなど支援の組み合わせが必要な場合や、家庭状況等支援が必要な場合は、できるだけ計画相談が入れるよう調整している。
- ・計画相談が足りていないのは事実であり、必要なところにできるだけ入るようにしているが、まだ道半ばの状況である。

＜委員＞

- ・計画はかなり細かくまとめているが、学校教育が抜け落ちていて、どのよ

うな学齢期の困難があるかわからないまま、いきなり就労の話になっているように感じる。教育委員会と連携して、一貫した障害福祉としての計画になるといいと思う。

＜事務局＞

- ・大津市障害者自立支援協議会の中で、トライアングルプロジェクトを行っている。今年度は報酬改定に伴い、連携による加算が創設されたため、どのような支援の連携ができるかなどを協議した。このような機会を見つけて、連携を深めていきたい。

＜委員＞

- ・需給ギャップや、南北の地域差は把握しているのか？

＜事務局＞

- ・堅田以北が少ないのは事実。細かいニーズまでは把握できていない。

＜委員＞

- ・健常児では空き教室を活用している例もある。障害児でもできるといい。重度ニーズが足りていない。

＜事務局＞

- ・住まいの場については待機者リストを作成しており、国庫補助を活用して施設整備を進めているが、一気に難しい。

＜委員＞

- ・南北の地域差は明らかにあるが、プランには組み込まれていない。

＜委員＞

- ・子ども発達相談センターではニーズの増によりひっ迫していると聞いているが、充実のために具体的にどのようなことをしている？

＜事務局＞

- ・他課の取組みについて、ここに記載されている以上のことの説明は難しいが、市全体として、子どもを中心とした施策推進のため、令和7年度に組織再編を計画している。
- ・組織再編がどのようなスキームになったかについては、令和7年度の社福審で報告できると思う。
- ・福祉人材確保など、障害者の課題についても組織再編による対応を計画している。

＜委員＞

- ・子どもと大人で切り離されることのない一貫した支援が必要だと思う。
- ・成人した障害者が子どもだった時に使ってきたサービス内容や状況などを切れ目のないように考えてほしい。

＜事務局＞

- ・就学前から学齢期への引継ぎのように、18歳以上の引継ぎの連携も深めていきたい。

＜委員＞

- ・精神障害者は集団生活が難しい場合が多く、地域生活の支援が重要となってくるが、地域生活支援拠点コーディネーターとは？

＜事務局＞

- ・4つの事業所に委託しており、退院促進や病院との協議、地域との連携を行っている。

- ・コーディネーターは精神保健福祉士とは限らないが、オアシスの相談員は資格を持っている。

＜委員＞

- ・やすらぎが閉まったこともあり、強化をお願いしたい。

＜委員＞

- ・資料3の実績値について、サービスを受けたかったが、断られるなどで受けられなかった場合も把握して反映しないと、現状にそぐわないのではないかと？
- ・難病の方など、災害時における個別避難計画の記載があるが、本人に連絡はいかないのか？

＜事務局＞

- ・資料3の計画値は目標ではなく見込量で、市外の事業所の利用者も含んだ実績ベースをもとに、国の実施要領に基づいて設定している。
- ・計画値の設定においては、サービス利用の伸び率のほか、養護学校の生徒数など潜在的ニーズが測れるものは織り込んでいるが、ここ何年かは新型コロナウイルス感染症の影響による異常値もあり、7期（児は3期）はコロナの影響を除いた値とした。次の計画では今の実情を踏まえて数値を設定したいと考えている。
- ・難病、小児慢性特定疾病については保健予防課、母子保健課で毎年「おたずね票」により状況を把握している。医療的ケアが必要な人などは、ハザードエリアに関わらず個別避難計画の作成を進めている。

＜委員＞

- ・昔に比べると補助や施設は増えたが、心の部分が置き去りにになっていないかと思う。
- ・先日、障害者福祉センターでエレベータが停まって、車イスで3階から降りれなくなった際に、近くを通った中学生たちに助けてもらった。
- ・制度も大切だが、小さい時から心に根付くような教育があればいいと思う。

＜事務局＞

- ・そのようなことが当たり前ができるよう、がんばって進めていきたいと思う。

＜委員＞

- ・大津市は監査がしっかりしているが、11月に守山でA型の不正があった。他分野から障害福祉への参入が増えているが、福祉の予算が増加している状況で、市民のために使われるように目を光らせてほしい。

（2）大津市公共施設バリアフリーチェックについて

＜事務局＞

資料5を用いて、事務局から説明

＜委員＞

- ・予算がかからない範囲での対応はわかったが、予算がかかるものの実績はあるのか？

＜事務局＞

- 予算にも大小があり、大きなものでは建替えや大規模改修のタイミングとなるが、小さなものでは駐車場のラインの引き直しやインターホンの修理などは対応されている。
- 「障害者に対しての合理的配慮の提供事例集」に前年度以前のバリアフリーチェックの改善前後の状況を掲載している。

＜委員＞

- 市役所本庁の障害者駐車場からも、車いすで一人だと大変。

＜事務局＞

- 庁舎の建替えはまだ少し先の話になるが、障害当事者からの意見を聴取する機会があると思う。